
望み

冬桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

望み

【Nコード】

N3592L

【作者名】

冬桜

【あらすじ】

バカと煙は何とやらとはいいますが・・・

上を目指す気持ちは誰にでもあるのかもしれない。地位や立場とかじゃなくてもっと単純で、簡単なもの。運動会で一位をとりたいたとか、成績で上位をとりたいたとか、高い場所から見晴らしの良い景色を見たいとか。

窓を騒がす風が五月蠅いと感じるそれなりに晴れた日のことだった。

風が強い日は相対的に寒い日だと思う。外に出ると肌を打ち付けるように荒々しく体温を奪っていく。家にいると生活音は風によってかき消され、聞こえてくるのは木々のざわめきと家がなく音。雨が降っていないのは良かったかもしれない。この風で大雨が降ると五月蠅くて仕方ないだろう。

特にやることがないためヘッドホンで音楽を聞き、ネットサーフィンをしていた。しかし、この体制は長くは続かない。よく分からないがヘッドホンで音楽を聞いていると喉がよく乾く。そのため、今回も喉を潤すために一階のリビングへと向かった。冷蔵庫を開けて、ご希望に沿う飲み物を探す。さっと目を通した限り、欲しいものはなさそう。あまり期待をしていた訳でもないのに、素直に冷蔵庫を閉め、薬缶やかんからお茶をコップに注いだ。

一息ついていっていると、風の騒音に紛れて遊び声が聞こえてくる。この風の強い日に何をしているのかと窓から様子を見る。しばらく眺めていると、紙飛行機が空を舞っているのが見えた。飛んではいると言いがたい、風に押し流されるだけの滅茶苦茶な軌道を描く。

「サーのっ」

複数の紙飛行機が掛け声と共に飛び立ったらしい。らしいと言っただけである。一斉に飛び立つ紙飛行機たち。相変わらずまともに

飛んでいるようには見えない。風は子供たちの願いを見事に裏切り続ける。吹けば吹くほど、塵のように流されていく紙飛行機は少し可哀そうに思う。しかし、子供たちは元気なもので既に何度目のトライか分からない回数をこなしていた。投げるインターバルがたまに長くなるのは失敗するたびに折り方を変えているのだろう。

そろそろ自室に引きこもろうかというとき、一つの紙飛行機が風に乗って高く高く舞い上がるのが見えた。子供たちから歓声があがる。そして、知らず知らずのうちに聞こえないだろう拍手を送っていた。

空を舞う紙飛行機から見える景色はさぞ綺麗だと思つ。

(後書き)

自分の紙飛行機もよれよれでもいいから飛んでくれないかな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3592/>

望み

2011年1月19日13時29分発行